

健康通信

問合先 市民病院 (☎ 76 - 4131)

病院の管理栄養士は、 「食事」で患者さんを支える専門職です

◆「食事」と「栄養」の力で患者さんの治療や回復を支えます

入院中の食事は、ただ栄養バランスがよいだけではありません。糖尿病や腎臓病、心臓病などの病気に応じた栄養量の調整、噛む力や飲み込む力が低下した方には食べやすい形態への調整が必要です。さらに病気や治療（手術、抗がん剤など）による食欲不振、吐き気、下痢、味覚障害、口内炎などで食事摂取量が低下することがあります。そのため、患者さん一人ひとりの病状、体調、嗜好に合わせた栄養管理を行う必要があります。食事量や体重変化、血液検査の結果を確認しながら、必要な栄養がしっかり摂れるよう継続的に栄養状態を評価し、その改善を目指しています。

◆管理栄養士を「病棟配置」しています

当院では全病棟に専任の管理栄養士を配置し、患者さんのすぐ近くで活動しています。昼食時には、病室へ訪問して食事の様子や食欲、困りごとを直接伺い、「食事が食べにくい」、「味が合わない」、「食欲がない」といった相談にも丁寧に対応しています。医師や看護師をはじめとした多職種と日頃から情報を共有し、患者さん一人ひとりに合った栄養管理を実践しています。

◆「NST（栄養サポートチーム）」の一員として活動しています

NSTとは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などの多職種が協力し、低栄養や食事が十分に摂れない患者さんの栄養を支えるチームです。管理栄養士は栄養の専門家として、患者さんに最適な

管理栄養士 澤 つかさ

栄養方法や「口から食べること」を大切にしながら、食事内容を提案し、治療効果の向上や合併症の予防、早期回復を目指しています。

◆退院後の食事の相談もおまかせください

退院後も安心して生活できるよう、病気に合わせた食事の注意点や調理の工夫、食材の選び方などをわかりやすくお伝えする栄養食事指導を行っています。患者さんやご家族が無理なく続けられる方法を一緒に考え、日々の食生活をサポートします。

◆「食べる」ことは、生きる力につながります

わたしたち管理栄養士は、患者さんの「食べたい」という気持ちを大切にしながら、安心・安全でおいしい食事と専門的な栄養管理を通して、これからも治療から退院、退院後の生活を支えられるよう努めていきます。



病院ホームページ▶